

2018年1月の金融経済概況のポイント

■景気の基調判断

- 1月は、「道北地域の景気は、持ち直している」としました。昨年7月に判断をワンランク切り上げた以降、変更ありません。
- このところの道北地域経済は、①公共投資の増加、②設備投資の上向き、③住宅投資の緩やかな持ち直し、④自動車の売行き堅調、⑤観光の持ち直し、⑥雇用状況の改善、といったプラス要因により持ち直してきています。今回は大型店の売上げ（12月）がやや弱めとなっていますが、全体の判断としては、「持ち直している」との前月までの判断を変更しませんでした。

■個人消費の動向

- 12月の大型店売上高は、前年を下回る実績でした。一昨年の12月と比較すると、土日祝の数は同じで雪の日の数も同じくらいだったので、カレンダー要因や天候要因で左右された面は少なかったと思います。あえて言えば、本年（2017年）は23日の天皇誕生日が土曜日で3連休とならなかったことくらいでしょうか。大型店売上高は4か月連続で前年割れとなり、12月は前年比▲2.2%でしたので、実勢は若干弱含みと言わざるを得ないと思います。もっとも、ここへきてさらに弱くなったということでもないように思います。また、12月は、前月まで4か月連続でプラスだった旭川市内の店舗もマイナスでした。
- 12月の新車登録台数は、小幅ながら前年比プラスでした。昨年夏までは大きく伸びていたのですが、秋頃からやや勢いが鈍ってきた感があります。除く軽自動車と軽自動車に分けてみますと、軽自動車が9か月連続の増加となったのに対し、除く軽自動車は11月に続き12月も小幅ではありますが前年割れとなりました。検査不正の影響が出ているとの声も聞かれています

が、これが一時的なものにとどまるか、これまでの好調な動きが一服するの
かはもう少し様子を見たいと思います。

■観光の動向

- 観光は、12月も持ち直し傾向を維持しているとみています。
- 道北4空港（旭川、稚内、女満別、紋別）の旅客数は、12月も前年を上
回り、8か月連続の増加となりました。旭川空港は、国際線は乗り入れ便
の減少から大幅マイナスとなっているため、全体でもマイナスでしたが、
国内線だけをみると、小幅ですが前年を上回っています（前年比+0.3%）、
他の3空港はすべて前年を上回っています。
- ホテル・旅館宿泊者数は、小幅ではありますが、4か月ぶりに前年を上回
りました。
- 各地観光施設の入込は、閑散期ではありますが、旭山動物園、博物館網走監
獄やウトロ温泉は、大幅な増加となりました。

■公共投資の動向

- 12月の上川、オホーツク、宗谷の3総合振興局における公共工事請負金額
は、季節的にボリュームは少ないですが、前年を上回りました。年度初来の
累計でも引続き前年度を上回っています。

■住宅着工

- 11月の新設住宅着工戸数は、持家、貸家とも2か月続けて前年を下回
りましたが、分譲住宅が大きく増加したため、全体でも前年を上回りました。住
宅着工は、これまで堅調だった持家と貸家がこのところやや頭打ちとなっ
てきている感もありますが、今回は「緩やかに持ち直している」との見方を
変更しませんでした。実勢が読みにくいところですが、住宅投資が一服とな
るのかについては、今少し状況を見極めたいと思います。

■住宅以外の建築物

- このところ高い伸びを続けている建築物着工床面積（非居住用）は、10月

は前年比大幅マイナスでしたが、11月は再びプラスとなりました。この統計は設備投資の動向を示す指標のひとつとして着目していますが、引続き増勢基調にあるとみています。

■雇用

- 雇用状況を示す指標は、引続き引き締まった状況にあります。11月の有効求人倍率は、旭川、稚内、北見、網走のいずれにおいても1倍を超えました。新規求人数は、北見地区と網走地区で久方ぶりに前年を下回りましたが、旭川地区と稚内地区が前年を上回ったので、全体では9か月連続の増加となりました。

■今後のポイント

- 先日日本銀行が公表した展望レポート（「経済・物価情勢の展望」）では、わが国の景気の現状について、「所得から支出への前向きな循環メカニズムが働くもとで、緩やかに拡大している」としています。輸出が増加基調にあることに加え、設備投資が企業収益や業況感が改善する中で増加傾向を続けており、個人消費も、雇用・所得環境の着実な改善を背景に緩やかに増加しています。
- 道北地域の景気は、12月に公表した短観をみても、地元企業の景況感は良好です。昨年からようやく設備投資の動きがみられ始めました。このため、当事務所の判断も昨年7月にワンランク切り上げるなど、良い方向に向かっているとみています。ただ、足もと大型店の売上げが依然鈍いほか、新車登録台数にやや頭打ち感がみられることが気掛かりです。また、公共投資について、災害復旧工事の発注が一巡しつつあるとの指摘が聞かれるほか、住宅着工も全国的・全道的には一服感が出ているようです。今後はこうした点にも留意してみていく必要があると思います。

以 上